

はまるものではないことに留意すべきである。

②英国の感染実験データ

英国において4ヶ月齢の子牛にBSE発症牛の脳100gを経口投与し、その経過を見た感染実験によれば、投与後6～18ヶ月で回腸遠位部に感染性が認められ、投与後32～40ヶ月で中枢神経系に感染性が認められた。臨床症状は、投与後35ヶ月経過後に見られた。本実験結果からBSEを発症した成牛のBSE総感染価は脳1gあたりの感染価を $10ID_{50}$ と仮定すると、約 $8,000ID_{50}$ （牛経口50%感染量）と推定されている（引用文献SSC報告）。

また、感染性の用量反応に関しては、発症牛の脳300gから1gまでと1gから1mgまでを経口投与した2つの実験がある。それらの実験結果（表1、図1）から、50%の確率で1頭発症する用量である $1ID_{50}$ は発症牛の脳1gと推測される。

なお、用量反応曲線から1%の確率で1頭発症する用量（ $1ID_1$ ）は10mg、99%の確率で1頭発症する用量（ $1ID_{99}$ ）は100gと推測される。

表1 英国における経口感染実験結果

投与量	1mg	10mg	100mg	1g	10g	100g	300g
発症率	1/15	1/15	3/15	2/5, 7/10	7/10	10/10	10/10

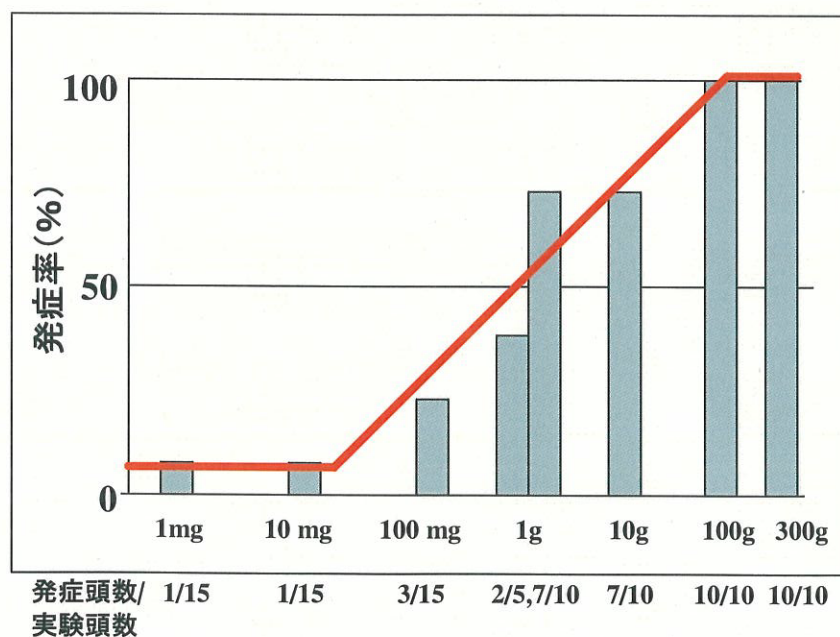


図1 英国における経口感染実験結果